

日本生体医工学会 平成27年度 第1回理事会 議事録

日時： 平成27年5月6日（水） 15:00～18:15

会場： 愛知県立大学サテライトキャンパス（ウィンク愛知）15階会議室

<出席者>

佐久間 一郎	野村 泰伸	山家 智之	石原 謙	伊関 洋	大城 理	大須賀美恵子	木村 裕一	楠岡 英雄	椎名 毅	砂川 賢二	中沢 一雄	橋爪 誠	増山 理	松田 哲也	松村 泰志	村垣 善浩	吉田 正樹	阿部 裕輔	牧川 方昭	杉町 勝	嶋津 秀昭	山森 伸二	篠原 一彦	植野 彰規	花房 昭彦
○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○

岩田 彰	岡本 英治	西條 芳文	土肥 健純	小林 俊一	長谷川 純一	中村 真人	木内 陽介	樗木 晶子
○	○	×	○	×	○	○	×	○

<配布資料>

- 27-1-2-① 平成26年度第6回理事会 議事録案
- 27-1-2-② 平成26年度臨時理事会 議事録案
- 27-1-3 平成27年度第1回理事会入退会審査対象者
- 27-1-5-② マルチモーダル脳情報応用研究会 平成27年度事業計画書
- 27-1-7-① 日本生体医工学会公益法人化の作業に関して
- 27-1-7-② 定款の変更について
- 27-1-8 第53回日本生体医工学会大会報告
- 27-1-11-① 次期日本医学会連合役員候補者の推薦について（依頼）
- 27-1-11-② 常置委員会委員の募集について
- 27-1-11-③ 業務委託契約書
- 27-1-11-④ 他団体との後援・協賛状況
- その他-① 平成27年度 定時社員総会資料（決算・予算案）
- その他-② 平成27年度 定時社員総会資料
- その他-③ Information for Authors Advanced Biomedical Engineering
- その他-④ ME 試験事業の現況と今後の運営方針の検討に関する会議 議事メモ
- その他-⑤ 生体医工学会専門別研究会 平成27年度配分額について
- その他-⑥ 平成27年度 日本生体医工学会理事会 課題メモ

<議事>

1. 理事会成立の件（大城理事）

- 成立要件を満たしていることを確認し、開会を宣言した。

2. ① 第6回議事録承認の件（大城理事）

- 資料 27-1-2-①に基づき説明があった。
- 9.② The IBME を The IFBME に訂正することが報告された。

2. ② 臨時理事会議事録承認の件（大城）

- 資料 27-1-2-②に基づき説明があった。

3. 入退会状況の件（大城理事）

- 資料 27-1-3 および回覧資料に基づき説明があった。

4. 平成 26 年度収支決算および平成 27 年度収支予算案の件（松田理事）

- 平成 27 年度 定時社員総会資料（決算・予算案）に基づき説明があった。
- 平成 26 年度収支決算の件
 - ◇ 事業収入②学術集会事業収入 その他の項の第 52 回学術集会の収入は、IEEE EMBC からの入金
 - ◇ 4.事業収入⑨試験事業収入は予算より決算が増加
 - ◇ (2)事業活動支出は、①機関誌出版事業費、②学術集会事業費、⑨委員会活動事業費、⑩試験事業費は、予算より決算が減少
 - ◇ 公益法人化対策として、Ⅱ. 投資活動収支の部 (2)投資活動収支として、以下を積立預金に繰入れておく。
 - ・学会賞事業資金繰入支出
 - ・教育・試験事業積立預金繰入支出
 - ◇ (2)事業活動支出 ⑧学会賞事業費
 - ・安部賞の文字が間違っているため、阿部賞に訂正する。
- 決算が承認された。

※ 教育試験事業費の妥当性について質疑があり、佐久間理事長より決算・予算の透明化の必要性について発言があった。

● 平成 27 年度収支予算案の件

- ◇ 事業活動収入 4.事業収入⑨試験事業収入を実態に合わせて増加させた。
- ◇ 事業活動支出 1.事業費 ①機関紙出版事業費を実態に合わせて増加させた。
- ◇ 事業活動支出 1.事業費 ⑥支部セミナー等事業費を実態に合わせて増加させた。

- ◇ 事業活動収入 ①機関誌出版事業費収入 1210 万円だが、実際の決算は 526 万円であり、実態に合わせる必要がある、という意見があった。
- ◇ 事業活動収入 ⑤ME シンポジウム収入に前年と同じ寄付金と補助金が計上されているが、新年度は寄付金（前回の繰越金）は変更になり、補助金は無くなる。
- 上記 2 点に関しては、平成 28 年度以降対応することとし、承認された。
- 学会の補助金を次年度大会以降、150 万円から 300 万円に増額することを決定した。
このうち半額を運転資金として大会事務局に支払うようにする。
この修正予算を作成し、次回の理事会で承認する。
- 公益法人化にあたって、ワーキンググループを作成し、予算全般の見直すことを決定した。来年の 3 月の新予算作成に間に合わせる。
 - ◇ 予算を財源に合わせて、作成する。

- ◇ 予算を実態に合わせるように、詳細検討する。
- ◇ 公益法人化にあたって予算の割り振りを見直す。
- ◇ 試験事業も独立予算でなく公益事業にして予算を一体化する。

5. ① 専門別研究会評価委員会報告（楠岡理事）

- 生体医工学専門別研究会 平成 27 年度配分額を基に説明があった。
 - ◇ バイオメカニクス研究会は書類に不備があったため、支給無しとした。
 - ◇ 航空・艦船医工学研究会は平成 25 年度終了と勘違いされており、26 年度活動が無かった。このため、平成 26 年度分は返納してもらう。

5. ② 専門別研究会申請について

- 資料 27-1-5-②について説明があった。
 - ◇ マルチモーダル脳情報研究会を終了し、マルチモーダル脳情報応用研究会の設立申請が行われた。7.5 万円支給する。
- 予算配分とマルチモーダル脳情報応用研究会の新設について、提案通り承認された。

6. ① 第 2 種 ME 試験・上海開催について、② 予算について（大須賀理事、嶋津理事）

- ME 試験事業の現況と今後の運営方針の検討に関する会議 議事メモに基づいて説明があった。

① 第 2 種 ME 試験・上海開催について

- ◇ 上海でも日本と同じ試験を行う。ただし、小論文は除く。
- ◇ 試験の持ち込み、試験監督、試験の持ち帰りをする。
- ◇ 上記に必要な旅費は上海側で
- ◇ 生体医工学会としては、受験者からはお金は徴収しない。
- ◇ 合格の基準に達する学力を有する事を証明する賞状を理事長名で発行する。
- 理事の方々より、下記のような意見があった。
 - ◇ 理事長名の証明書を発行すると、その証明書が一人歩きすることにならないか。
 - ◇ 受験料を科さないのは、日本の受験生に対して不公平にならないか。
 - ◇ 受験問題やノウハウなどが、上海側に流出してしまうのではないか。
 - ◇ 国際協力、学会のプレゼンス向上といった観点からは、協力することが望ましい。
 - ◇ 中国の生体医工学会に連絡しておく必要はないか。
- 以下の内容を含む覚書案と証書案を教育委員会に作成して理事会に提出していただき（5 月末まで）、理事会の中でメール審議を行うこととなった。
 - ◇ 正式な ME の試験の合格証では無いことを明記する。
 - ◇ 試行的に実施したものであることを明記する。
 - ◇ 3 年程度は試行的に行う。

② 予算について

- ◇ 再試験行う時の予備費としては 6000 万円程度確保したい。
現状は積立預金として、5500 万円確保されている。
- ◇ 今年度は、実態に合わせて 500 万円の予算を組んだ。この黒字部分は他の事業に使用しても構わない。
- ◇ 剰余金、黒字予算の活用方法については、公益法人化も見すえて、予算検討ワーキンググループの中で検討することとした。

7. 定款改定 WG について（阿部理事）

① 公益法人化への流れについて

● 資料 27-1-7-①を基に説明があった。

- ◇ 財務調整（案）については、予算案として承認された。
- ◇ 財務の見直しに関しては、予算検討ワーキンググループの中で検討する。

② 定款の変更

- ◇ 誤って公益社団法人となっていたのを一般社団法人に訂正する。
- ◇ その他、不要な項の削除を行う。
- ◇ 社員総会の承認必要（定款の変更については、委任状+出席者で、2/3 以上必要）
- ◇ 次年度公益社団法人になった時には、再度定款を公益法人に変更する必要がある。
- ◇ ただし、認可が出て一定期間内で総会の承認が必要となる。

8. 第 53 回大会報告（大城理事）

● 資料 27-1-8 に基づいて報告があった。

9. 第 54 回大会報告（岩田理事）

- 口頭で準備状況報告があった。
- 5 月 7 日(木)～9 日(土)，名古屋国際会議場で開催する。

10. 第 55 回大会報告（中村理事）

- 口頭で準備状況報告があった。
- 2016 年 4 月 26 日(火)～28(木)，富山国際会議場で開催する。

11. その他

① 次期日本医学学会連合役員候補者の推薦について（佐久間理事長）

- ◇ 資料 27-1-11-①に基づいて説明があった。
- ◇ 情報があれば佐久間理事長へ連絡する。
- ◇ 対応については、佐久間理事長に一任することとなった。

② 横幹連合の常設委員会委員について（佐久間理事長）

- ◇ 資料 27-1-11-②に基づいて説明があった。
- ◇ 意見があれば佐久間理事長へ連絡する。
- ◇ 対応については、佐久間理事長に一任することとなった。

③ (株)CE コーポレーションの覚書の締結（大城理事）

- ◇ 資料 27-1-11-③に基づいて説明があった。
- ◇ 試験委託先として、毎年覚書を締結している。
- ◇ 例年と同じ内容であるが、社長が変更となった。
- ◇ 本件の内容で承認された。

④ 協賛等の状況

- ◇ 資料 27-1-11-④と回覧資料によった。

⑤ 日本生体医工学会平成 27 年度会務分担（案）について（佐久間理事長）

- ◇ 日本生体医工学会平成 27 年度会務分担（案）と平成 26 年度会務分担に基づいて説明があった。
- ◇ 平成 27 年度会務分担（案）について以下の訂正があった。

（訂正版は佐久間理事長から送付される予定）

- ・ 教育 嶋津秀昭→大須賀恵美子
- ・ 選挙管理 嶋津秀昭→山森伸二
- ・ 選奨委員会(委員長) 松村泰志→増山理

- ◇ 本表の平成 27 年度会務分担（案）について承認された。
- ◇ 意見がある場合には、佐久間理事長へ連絡する。
- ◇ 政府の医療機器開発推進の動きに対応する委員会を設置してはどうかという意見があった。

⑥ 平成 27 年度日本生体医工学理事会課題メモ（佐久間理事長）

- ◇ 平成 27 年度日本生体医工学理事会課題メモに基づき、以下の項目に関して佐久間理事長より説明があった。

1. 理事会会務分担（特に公益法人化への対応）
2. 委員会構成の改革
3. 重点検討課題

⑦ 投稿規程の改定について（木村理事）

- ◇ Information for Authors に基づいて説明があった。
- ・ 電子投稿に対応して投稿先を明記した。
- ・ Authorship について記述を追加した。
- ◇ 本件について承認された。

⑧ 選奨規程について（村垣理事）

- ◇ 選奨規程が古く、実態と合っていない部分があるので、見直す必要がある。

⑨ 学会支援機構との業務委託契約更新の必要性について（佐久間理事長）

- ◇ 学会支援機構との業務委託契約更新の必要性があるかどうか事務局に調べてもらう。

⑩ 学会大会発表者の選奨について（岩田大会長）

- ◇ 座長と組織委員会側が候補者を選出する。